

令和4(2022)年度前期霞ヶ浦湖岸植物定点観察活動の報告

再生地にミゾコウジュ(国・県準)が出現、アサザ(国準, 県Ⅱ)が開花したがナガエツルノゲイトウ(特外)の生育地が増えた。

月/日	ABEFGHKL 区観察概況 (I・B・Ⅱ:絶滅危惧 I B 類・同Ⅱ類、準:準絶滅危惧、特外:特定外来生物)
R 4 4/13	急な気温の上昇でタンポポ類など黄色い花が一斉に開き、低地で満開の ノウルシ が群生し特有な香りを放っていた。展葉と同時に開花した タチヤナギ や ジャヤナギ などが湖岸を彩り、カサスゲ、ヌマアゼスゲ、アサマスゲも開花、法面はノヂシャやスズメノエンドウなど野豌豆類の花で賑やかだった。ウチワゼニクサ(北米原産)の侵入を初確認。
5/11	オオヨシキリが鳴きオギやヨシが伸びてきた湖岸、 タチヤナギ や マルバヤナギ の柳絮が飛び交い、ウキヤガラやフトイが開花、 ヤナギトラノオ や キショウブ が満開だ。ジョウロウスゲ、アゼナルコ、ミコシガヤが出穂、ノイバラ、ツルマンネングサが満開でスイカズラも開花した。B 区新堤防裏法西側で特定外来種 アレチウリ が一面に発芽していた。
6/08	梅雨の中オギやヨシに濡れながらの観察。A 区で サジオモダカ が花茎を伸ばし B 区再生地で新出種の ミゾコウジュ と クスダマツメクサ が花を付けていた。ジョウロウスゲの大きな花穂が見られ H 区再生地では アサザ が初めて花を付けた。ネズミモチやイボタノキの白い花が見られ、特定外来種 ナガエツルノゲイトウ や オオフサモ にも花が付いた。
7/13	梅雨明け後に猛暑が続くヨシやオギが背丈を超えた。サジオモダカ、ヒメガマ、シロネ、エゾミソハギ等が花茎を伸ばし花や実を付けた。4月に新出した ウチワゼニクサ が花を付けていた。トチカガミが E 区蓮田で、G 区で新出種 フヨウ が見られた。特定外来種 ナガエツルノゲイトウ が B 区にも出現、 ミズヒマワリ があちこちで花を付けていた。
8/10	立秋過ぎの猛暑日、繁茂する ミズヒマワリ や オオバナミズキンバイ など特定外来種について取材を受けながら観察した〔9/9 朝日新聞「地域総合版」掲載〕。 マツカサススキ が出穂し アズキ 、 タコノアシ が開花、 エゾミソハギ や イヌエンジュ が満開だった。シロバナサクラタデ、ツルマメ、クサネム、ヤマハギ、サネカズラなど初秋の花が咲き始めた。
9/14	ヨシが穂を出しセンニンソウの白、ツルボの淡紅紫色、ヒガンバナの赤やオグルマの黄色など花々が多彩だった。 マツカサススキ 、 イガガヤツリ などカヤツリグサ科植物も穂を付け、 メドハギ 、 タンキリマメ などマメ科植物の花や実が多く見られた。新出種 ハナセンナ 、 イチビ 、 イヌビユ の生育を確認した。 ナガエツルノゲイトウ が H 区に侵入した。



4月**ノウルシ**(トウダイグサ科)多年草
国・県準 茎先で杯状花序を開く。



5月**ヤナギトラノオ**(サクラソウ科)多年草
県Ⅱ 下部の葉腋に花穂を付ける



6月**アサザ**(ミツガシワ科)浮葉性多年草
国準, 県Ⅱ 再生地に出現し開花した



7月**ウチワゼニクサ**(ウコギ科)多年草
北米原産生態系被害防止重点対策種



8月**エゾミソハギ**(ミソハギ科)多年草
ミソハギより壮大で茎頂に花穂を付ける



9月**マツカサススキ**(カヤツリグサ科)多年草
松笠状の小穂が密集した球形の花序